

3

| 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
|----------|---|-------------------------------|------|
| 14101004 | 古代アナトリアの文化編年の再構築 - カマン・カレホユックにおける前3 - 2千年紀の文化編年 - | 大村 幸弘((財)中近東文化センター・学術局・主任研究員) | A |

(意見等)

一般的に、日本人の海外調査は短期間で終了する傾向が強く、事業の継承性が少ないために、欧米や当該国の研究者に伍して世界的知見での研究成果をあげることは極めて困難であった。その点20年近くにわたり、同一遺跡に取り組んで着実に研究を推進し、理化学的な研究法も取り入れていることや共同調査を通して「研究者養成」をしている点などは高く評価される。しかし一方調査が永年に及ぶために、やや惰性に流れている傾向は否めない。アナトリア文明解明のためのカマン・カレホユック遺跡での発掘調査のグランド・プランと5年単位での何を明らかにするかという実施プランを、もう少し有機的関連性をもって明確にする必要があると思量される。その点では、速報的な学会発表はあっても、大部な毎年の概報は必ずしも必要ではなく、その労力は最終年度での正式報告書に投入するほうが適切ではないか。

中近東文化センターによるカマン・カレホユック遺跡での取り組みは、日本人研究者の海外調査では稀に見る継続性をもった調査であり、それゆえこの調査団のもたらす研究成果が世界の共有財産になる可能性を秘めたものと考えられる。今後とも研究を推進していただきたい。

4

| 課題番号 | 研究課題名 | 研究代表者 | 評価結果 |
|----------|-------------------------------------|--------------------------|------|
| 14101005 | 寺院経蔵の構成と伝承に関する実証的研究 - 高山寺の場合を例として - | 石塚 晴通(北海道大学・大学院文学研究科・教授) | A |

(意見等)

経蔵文書の総合的研究を目指す本研究は、日本の歴史・文化研究にとって重要な意味を持っており、是非継続して推進されるべきである。研究成果は、多様な研究領域で有効に活用される事が予想される。調査上の困難点が研究状況報告書に記載されているが、制約は認められた上で、なお最善を尽くすことが期待されている。研究成果は、データベース化された電子媒体資料として、また出版物として刊行されて、他領域の研究者のために提供されることも要求される。今回の科学研究費補助金にかかる年次計画以降にも、研究が継続されることを期待する。一部予期できなかった理由により刊行に遅延が見られるが、今後は軌道修正されることを希望する。